



とく破壊されるだけでなく、そのことによつて、国民全体にとつて悲惨な戦争への道を歩むという痛苦な歴史の教訓からも労働者として絶対に容認してはならないものであった。

動労本部は鉄労と一緒にたつて労使協調、分割・民営110万人首切り推進、日の丸、君が代、自衛隊、安保賛成の「鉄道労連」の「結成を進める会」発足、鉄労と合体し「水戸改革協」を十一月十二日デッチ上げたのだ。

この間、先輩達の築きあげてきたたから動労の伝統・労働者魂・職場での団結から学び、受け継ぎ、本部分針を批判し、これを正すために全力でたたかってきた仲間に対し、七月に三名、さらに、十一日にはなんと二一名の仲間の組合権停止という暴挙にでてきたのである。

ここに至り、労働者としての道を守り、組合員一人ひとりの権利と利益を守りぬくためには、もはや自分自身の手で闘う動労の伝統を守りぬく組合を結成し闘う以外にはないという結論にいたった。

**動労水戸地本の40人が脱退**  
新労働者結成  
【水戸】動労水戸地本（茨城県水戸市、七百七十四人の組合員）が、阿部地本脱退を断念し、2,328人が「国鉄水戸労働者結成会」を結成した。同日、水戸市の市民会館で結成大会が開かれた。  
新組合は、国鉄の分割・民営化に絶対反対を主張する水戸、勝田、太の各青年部の3,288人が参加している。新組合結成後、茨城県の「代議」は「現在の動労は結成を迫っているが、万人を絶えず切りながら、費用を多くとっている。われわれが立ち上がるしか、もう方法はない」と断言している。  
地本からの脱退して後者の組合を結成するのは、半端な労働者、高崎動労に次いで三番目。水戸地本内では、七割の賛成を得た。



**労働者を裏切ることは自分自身も滅ぼす道だ**

決起した三八名の仲間はさらに「私たちはいまだ小数とはいえ絶対にたたかひの炎を消してはならない。仲間を敵に売って自分だけ生き残るといふ労働者の道に反する生き方を歩んではならない。

動労本部と地本のような戦争と反動へとながる道を断固拒否する。労働者階級を裏切り、人民を裏切ることにより、結局自分自身も滅亡する道を拒否し、たたかねばならない。

そのために私達は自らの手でたたかう「動労水戸」を結成する」と高々と宣言した。

**いまこそ動労革マルを打倒し動労大改革を!**

そして、「動労が国労とともに国鉄分割・民営化にあくまで反対を貫いていたら、当局・中曽根内閣といえども今のようになりたい放題のことができなかったことはあきらかだ。すなわち動労本部革マルの転向・裏切り・屈服が現在の分割・民営化攻撃を可能にしていることはあまりにも明らかだ。動労本部革マルの打倒はいまがすべての国鉄労働者の共通の課題である」と訴えている。

まさに、動労革マル・松崎の動労私物化11支配の打倒なしに動労の変革はないことは鮮明だ。  
われわれは、動労水戸・動労高崎の仲間とともに、動労革マルを打倒・一掃する闘いを実現していかなければならない。